

発行 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-61
開発教育協議会事務局 Tel 03-207-8085

夏の研究集会，総括評価のころみ

10月20日の開発教育協議会理事会は，さる8月に神戸で開かれた第5回研究集会の内容についての評価を試みた。

評価の資料は参加者からの調査票回答と，集會に参加した理事や加盟団体の意見である。研究集会の運営形態については，新しい試みであったワークショップを支持する声が過半数を超え，さらにはワークショップの数を思いきって増やしてほしいとか，初心者対象のワークショップを開くべきだという積極的な提案も多くみられ，今回はワークショップ・コーディネーターの人選で頭を悩ませられた理事会に一層の難題がつけつけられたかっこうとなった。

また研究・実践事例発表の場も継続して確保すべきだという意見が圧倒的で，さらに開催日については8月20日前後の土・日曜日を希望する声が半ば以上を占めた。この結果から来年の研究集会は8月20日と21日に開催ということにほぼ決まったといえよう。

協議会の顧問規定

開発教育協議会に顧問をおくことは規約第6条に示されているが，このほどその顧問に関する規定が理事会によって作成された。

規定は5項から成立していて，第1項は総則，第2,3項が役割，第4項が人数と任期，第5項が推挙の方法と手続きについてである。その概要を紹介すると，顧問は理事会の求めに応じて協議会の運営や活動の推進についての意見を述べるのが期待され，また議決には加わらないが，いつでも理事会に出席し意見を述べるができる，となっている。

そのほかにも研究集会の形態や内容，運営に関して多くの意見がだされている。参加者のそれぞれが出した意見であるから，まとめてみると相矛盾したりするものもでてくるが全体としてもっとも目立つのは，より長い時間をかけて討議すること，理論的検討と並行して実践事例の発表をすすめていくこと，第三世界や開発問題についての情報をインプットすること，の必要性を指摘した声だろう。研究集会を合宿集會にして討議の時間を確保せよという意見が一人ならぬの参加者からだされている。

また研究集会は年に一度の全国研究集会だけではなく，地方単位，県単位で開くべきだという声もかなりみられた。

理事会ではこれらの声に答えて次回の研究集会を開催するように，できれば来年5月には研究集会開催の大綱と参加者募集の要項が発表できるように，作業をすすめていくことになった。

顧問には定数も任期も定めないが，推挙のためには2名以上の理事が理事会に提案して承認されることが必要とされた。なお，この規定は10月20日から有効となった。

NGO活動推進 センター発足

関西国際協力団体協議会（本ニュースレター8号参照）に続いて，関東地区にも国際協力に係わるNGOの交流を促進する組織が結成され，10月6日にその発会式が行われた。

この組織はNGO活動推進センターと名付け

られ、アジア学院、アジア・コミュニティ・トラスト、アジア保健研修財団、オイスカ産業開発協力団、幼い難民を考える会、基督教

児童福祉会国際精神里親運動部、シャプラニール・市民による海外協力の会、曹洞宗ボランティア会、日本キリスト教海外医療協力会日本国際ボランティア・センター、日本シルバー・ボランティアズの11団体が参加している。いずれも直接海外協力活動を実施しているところばかりで、オイスカ、シャプラニール、曹洞宗ボランティアおよびシルバーボランティアズは、開発教育協議会加盟団体でもある。

センターは海外協力を行うNGO間の交流や協力関係の促進、NGOの健全な発展などに資する事業を行ったり、海外や国内の関係団体などと提携協力を促進していく働きを担うほかにも、開発教育活動も展開していくこととされた。センターが発足した10月6日には、第1回理事会も開かれ、理事長に高見敏弘氏（アジア学院）、事務局長に伊藤道雄氏（アジア・コミュニティ・トラスト）などの役員を決めた。事務局は東京都文京区湯島3-1-4会田ビル5Fにおかれている。

外務省、開発教育担当 瀬川 進さんに

3年近くにわたって、経済協力局政策課で開発教育やNGO海外協力活動を担当してきた外務省の田中和夫氏は、去る8月の人事異動で国際連合局経済課に移り、その後任としてリオ・デ・ジャネイロ領事の瀬川進氏が着任した。瀬川氏は、開発教育というような活動は一朝一夕には目立った進歩があらわれないものであることは承知しているが、これまでの実績の上に、ひとつでもふたつでも石を積み上げてみたいと語っている。

両氏の歓送迎のために去る10月8日、国際協力推進協会の呼びかけで30人あまりの有志が集って会を開いたが、その席上、田中氏は

新しいポストは開発問題や開発協力に係わる場所だから、開発教育とは縁が切れないものと思っていると述べた。

第7回国連貿易開発 会議のあらまし

一般的にはあまり報道されなかったが、第7回国連貿易開発会議(UNCTAD)が、去る7月9日から8月3日まで、会期を予定よりも3日間延長して、ジュネーブにあるヨーロッパ国連本部で開かれている。UNCTADは1964年に国連総会のもとに設立された、発展途上国の貿易と開発に関する諸問題を南と北の諸国が話し合う場であり、4年に一度は全体会議が開かれることになっている。今回は7回目の全体会議にあたる。

今回の会議では、世界の経済動向および構造変化について全体的なオーバービューをしたあと、開発のための資源、一次産品、国際貿易および最貧困国群(LLDC)という4問題について話し合われた。世界経済が不況から脱出したといわれているにせよ、先行きの見通しが不明であり、南北間の対話もスムーズではない時だけに、きわだった話合いの成果があったとはいえないようである。新聞で報じられた通り、先進工業国のペースで討議が進められたとみてよいだろう。LLDCについてもLLDC向けのODA目標として対GNP比0.15%と倍増目標が示されたが、一方ではLLDCに国内政策の中で公共セクターの効率向上、企業家精神の奨励を優先的に取りあげることが求められるなど、先進工業国と発展途上国の義務と努力にバランスを取ろうとする話合いのあとがうかがわれる。

なお、この会議における日本の対応と期待について、外務省国際連合局の百々正憲氏は外相の対途上国資金フロー促進のための賢人グループの設立および一次産品加工度向上のためのラウンド・テーブル設置の2提案に対する反響の大きさを紹介する一方、フィン

シャル・タイムズ紙の「今次UNCTADのひとつの特徴は、日本が経済戦略策定における影響

者として、部分的にせよ、登場してきたことである」という記事を引用している。

+ + + + + + + + + + + + + + + +

さまざまなお知らせです

以下のお知らせは、加盟団体その他からご案内いただいたものです。最初にいくつかのプログラムへの参加募集案内を実施日が近い順に、そのあと、一般的な案内を載せます。このほかにもご案内をいただいたものがありますが、締切日や実施日を過ぎていたものは省略しました。一般募集をする活動や行事はなるべく早めにお知らせください。

国際居住年記念市民フォーラム

藤沢市で「アジアに学ぶ」をテーマに

国際居住年と神奈川県立婦人総合センター5周年を記念して、11月15日（日）朝10時から、藤沢市江の島にある神奈川県立婦人総合センターで、神奈川県などの主催による市民フォーラム「アジアに学ぶ ― 新しい住まいと暮らしを求めて」という事例報告と討議が、映画、音楽、バザーなどというアジアに関するにぎやかなイベントとともに、開かれる。事例報告はパキスタン、インド、タイおよび神奈川について。入場無料。問い合わせは横浜市中区日本大通 神奈川県都市部都市政策課まで。電話045-201-1111内線6340-1。

現場報告『開発協力の新動向』

大阪YMCA国際協力月間スペシャル

大阪のYMCA国際・社会奉仕センターでは、日本ユニセフ協会関西事務所と共催で、現場報告「国際協力の新動向」という表題で3回連続の報告会を大阪市北区堂島 毎日ホール南隣の同センターで開く。最初の2回はすでに終わっているが、第3回は11月11日（木）午後6時半から、バンコクのESCAP で働いている穂坂光彦さんを招き、スラム改善は俺たちの手で！という表題の報告。会費は1,500円、申込みは前日までに電話で06-344-1717まで。

ネグロス島の黒砂糖入荷

日本ネグロス・キャンペーン委員会などでは、新しい援助のスタイルとして草の根貿易を試み、その第1弾としてフィリピンのネグロス島から黒砂糖を輸入し、各地の消費者グループなどを通して販売し、その利益を現地に還元しようとしている。黒砂糖はマスコバドと呼ばれる伝統的な自然製法によるもので1キロ1袋 620円（送料別）、このうち50円が現地に送金される。希望者は東京都新宿区新小川町1-19 日本ネグロス・キャンペーン委員会、名古屋市東区東桜2-13-23 中部リサイクル運動市民の会、北九州市中畑区西鞆ヶ谷町5-28 九州・共生社生協連合、徳島市出来島本町2 徳島暮らしをよくする会、のいずれかに問い合わせること。

東京山手YMCA国際理解講座

11月14日から29日まで 5回にわたって

東京の山手YMCAでは第12期の国際理解講座を「食卓から見えるアジア」を主題として、11月14日、20日、28日および29日（29日を別にしていずれも土曜午後から夜にかけて）に5回連続講義と討議という形で開催する。場所は新宿区西早稲田2-18-12 の同YMCAで、参加費は28日午後8時までの5回にわたる講義については一括申込み 3,500円、各回ごとでは800円、そのあとの合宿参加費は夕食代も含めて3,500円。申込み、問い合わせは電話で03-202-0321 の東京山手YMCAまで。

ユニセフ／シャプラニール

クリスマスカードができました

ユニセフ・グリーティング・カードとシャプラニールの麦わら細工カードが季節を迎え

て利用を待っている。シャプラニールはそのほかにもいろいろなバングラデシュの手工芸品を扱っており、ユニセフは年賀状やギフトアイテムも取り扱っている。申込み、問い合わせは、それぞれ、東京都港区麻布台3-1-2 日本ユニセフ協会、あるいは東京都新宿区西早稲田2-3-1 シャプラニール=市民による海外協力の会、あてに。

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

資料を頂きました

9月と10月に開発教育協議会は次のような定期刊行物や報告書を頂いた。刊行物表題の五十音順、カッコ内は発行者名。ちらしや案内のたぐいは省略した。

愛の光通信No 2(東京ヘレン・ケラー協会海外盲人援護事業事務局), I House News Vol 2(大阪国際交流センター), ACT News No 3(ACTニュース編集部), アジアの健康64号(アジア保健研修財団), アジアの子ども第8号(アジア保健研修所), Shapla Neer Report 48, 49(シャプラニール=市民による海外協力の会), JSV 会報 No 16(日本シルバーボランティアズ), JSV 会報別冊 87-1(日本シルバーボランティアズ), 地球市民 10, 11, 12 号(地球市民の会), Development Forum Vol XV. No 7(UN Division for ESI/DPI & UNU), ネパール教育協力会だより第57号(ネパール教育協力会), PHD Letter 24(PHD 協会), ユニセフニュース第135号(日本ユニセフ協会), Unicef 緑の会 Vol 38(ユニセフ関西市民の集い), Report of DPI Asia/Pacific Leadership Training Seminar, October 1986 (Asia/Pacific Regional Council, Disabled Peoples' International)

なお前号に掲載した寄贈資料名から、アジア保健研修財団のアジアの健康第63号、ワンワールドの会のOne World No 10 が脱落していました。お詫びとともに追加します。

たみちゃんシリーズ, 合本で市販へ

神奈川県渉外部国際交流課がこれまで3回にわたって発行していた、いわゆるたみちゃんシリーズが、「たみちゃんと南の人びと」という表題で合本となり、東京都文京区本郷1-13-4の明石書店から発売されることになった。定価は千円。なお合本は3分冊で、1冊400円で分売もしている。

機関誌12号

1月発行予定

機関誌「開発教育」第12号の編集プランは8月と10月の事務局運営会議で検討され、内なる国際化への課題(仮題)を特集のテーマとして、来年1月発行を目途に編集作業を進めることとなった。社会の国際化に伴なってさまざまなひずみが、社会の仕組みにも人間の心の中にもあらわれてきているが、発展途上国にかかわるそれらの問題を考えてみようというのが編集の意図。

なお、神戸研究集会の模様もこの号で報告される予定。

地域の研究集会予定

お知らせください

この号の最初の項で報告した通り、開発教育協議会理事会は、地域における開発教育研究会、情報交換会、経験交流会などを促進したいと考えている。市町村あるいは県、ブロック、どんな単位でもかまわないが、開発教育にかかわる集会の企画を、ぜひ事務局までお知らせ願いたい。応分の協力と後援を理事会では考えている。

夏の全国研究集会でも、各地域で研究集会を開けという要望がだされたが、現在の開発教育協議会の運営体制には、協議会自らが地域の研究集会を主催する力がないので、各地に在住する協議会会員の方のイニシアチブに待つものである。すこしでも開発教育を押し広めるために、ぜひ集会を企画してほしい。